

第27回麻布環境科学研究会 シンポジウム4

臨床検査（輸血検査）に携って40年……

高橋 康子

社会保険群馬中央総合病院

1968年に検査技師になり、厚生連石橋病院ではほんの少し輸血検査の経験をいたしました。その後1970年から現在までに従事した、社会保険群馬中央総合病院での輸血検査業務の経験を中心に話しを進めます。

本格的に輸血に関わり始めたのは1978年日臨技輸血研究班主催の通称「箱根研修」に参加してからです。その頃より臨床検査として「輸血」が徐々に関心をあつめ、血液型判定（オモテ・ウラ）、交差適合試験（クームス法）、および不規則抗体検査等、今ではあたりまえの検査がこの時期より始められる様になったと思います。

1984年から群馬県臨床検査技師会も輸血実技研修（初心者）を行うようになり、現在も全体の技師のレベルアップに繋がっております。また、1995年から認定輸血技師制度が発足し、今では上級を目指す技師の技術向上の場にもなっているのです。

また、院内では1997年に輸血療法委員会が発足し、独自の「院内輸血マニュアル」の作成を行い、1999年から輸血管理が一元化となり現在に至っております。これらを集大成化する「院内輸血マニュアル」

改定版の作成が、今年度迎える停年までの大きな宿題となっております。最後に触れる検査技術の未来については、輸血検査の展望を述べるのではなく希望で終わってしまいそうです。

以下、口演の概要（レジюме）を記します。

1. 検査方法

マニュアルからオートへ（クームス遠心器・全自動輸血検査装置）

試薬の変遷（抗血清・血球試薬）

2. 輸血検査の教科書

「輸血検査マニュアル」

「血液型抗原と抗体」

「AABB Technical Manual」

「輸血学」

「日臨技 輸血検査標準法」

3. 輸血の一元化

輸血検査

輸血製剤管理（薬剤部～臨床検査部）

輸血効果判定

輸血副作用

4. その他